「平成の百工比照」

組紐

監修：一般社団法人伝統技術伝承者協会
編集：多田牧子
制作：梅原初美・岡本睦子・尾崎嘉代・小嶋博子・清澤澄江・
銭谷信子・多田牧子・多田真純・田村由美・永井夕子・
西　幾代・八田　俊・丸山文乃・三上扶実子（50 音順）
協力：株式会社 テクスト、有限会社 昇苑くみひも

2025 年 3 月 31 日

平成の百工比照

組紐



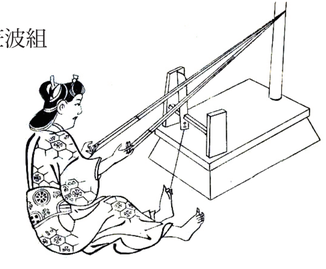
全体構成

1 材料	平糸・紛糸・撚り糸・金属糸	1 箱
2 クテ打	組見本・制作写真・動画・図	6 箱
3 唐組台	組見本・作品写真・動画・図	4 箱
4 丸台	組見本・制作工程・動画・図	17 箱
5 高台	帯締め・初期配置・動画・図	9 箱
6 角台	帯締め・制作工程・動画・図	3 箱
7 綾竹台	帯締め・初期配置・動画・図	5 箱
8 創作	組見本・制作方法・動画、図	5 箱

1 材料と準備

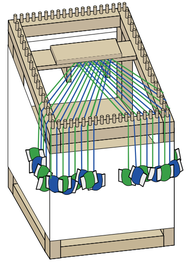
2 クテ打

1　蛇腹組・角組・平組（重打）・角組２本・御岳組・丸源氏組・笹波組
2　８畝平組「常組」
3　西大寺組・鞆淵組・中尊寺組
4　知恩院組・春日大社組
5　四天王寺組　２本
6　両面亀甲組



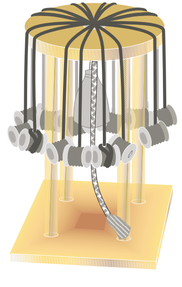
3 唐組台

1　六桁五菱・六桁二菱・六桁十菱
2　六桁十菱（試作）
3　八桁十菱（唐組平緒試作）
4　八桁四菱筒状唐組の帯締め



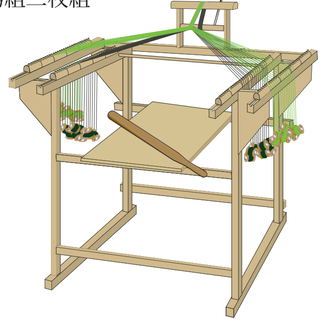
4 丸台の組紐

1　丸四つ組
2　江戸八つ組とその展開：江戸八つ組・かわり江戸八つ組・八つ老松
3　角八つ・八つ瀬
4　金剛組：八つ金剛・12 金剛・16 金剛・、24 金剛（それぞれ　S, Z, S&Z）
5　唐八つ組系：唐八つ組・平唐 12・平唐 16、
6　重ね 江戸組・丸唐組・内記組
7　老松・平老松・籠目組
8　丸源氏・大和源氏
9　平源氏系：江戸源氏・厚耳源氏
10　小桜源氏・小桜源氏表裏違い
11　片瀬・笹波
12　丸台唐組・唐組合わせ・双び唐組
13　菊唐組
14　ゆるぎ・奥ゆるぎ・御岳
15　36 玉花金剛・うねり丸金剛
16　檜垣・枡組・吉原つなぎ・六畝平組
17　アンデスの丸角組



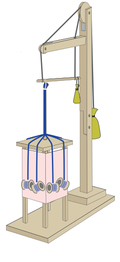
5 高台の組紐

1　安田組・高麗組・常組
2　笹波組（49 玉）・青海波・笹波返し・菱笹波組・菱花笹波
3　半重ね唐組・鼓組・変わり笹波・笹波大和・変わり貝の口浮舟（58 玉）
4　笹波高麗＋青海波高麗・片面亀甲・64 玉両面亀甲・厳島組・厳島組二枚組
5　小桜組・青海波鹿子・和＋千羽鶴・叢・菊紋（92 玉）
6　厳島（ネクタイ）
7　中尊寺組（72 玉）・西大寺組（56 玉）
8　両面亀甲（144 玉）
9　アンデスの組紐（80 玉）
　　捩り笹波・捩り菱つなぎ・捩り四つ組柄・翼文組・三角山道



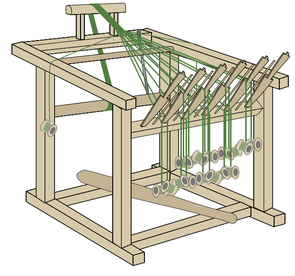
6 角台の組紐

1　丸四つ組・角八つ組・江戸八つ組＋鴨川巻・変わり江戸八つ・
　　変わり江戸八つ組＋蛸足房
2　丸唐組・平唐 16 玉＋唐巻＋苺房・平唐 24 玉・平唐 24 玉
3　翁組・唐梅・竹鳴子網代・網代 16 玉・三つ網代



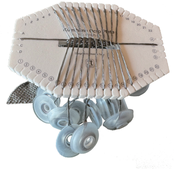
7 綾竹台の組紐

1　竹節組と笹柄組・梅駿河・半月・鎌倉組・折式・小うねり
2　松笠・変わり瓢・綾小桜・若杉・おどし組
3　鎌倉交差・双び鎌倉組・よろけ駿河・田毎・綾檜垣
4　両面大和そてつ・錦繧繝・四枚飛駿河・鎧組・違い四枚駿河
5　四枚絣駿河・四段綾竹・四段昼夜組・四段鱗組・四段違い鱗



8 創作の組紐

1　半円組・うねり角組・三角組 1・三角組 2・うねり三角組 S
2　紐入り紐（Braid in braid)・ジグザグ組　　ネックレス
3　アンバランス金剛 16 玉 (バロック金剛)・アンバランス金剛 24 玉
4　2 色平角螺旋組・クネクネ組
5　大波組・亀甲レース組・1-1 Braiding の花







材料と準備

組紐制作の工程

染色　　糸染めの作業。絹糸を枷の状態で染める。草木染め、科学染めがある。また、1 色に染めた無地の糸のほかに、段染め、〆切ぼかし、斑染め、吸上げぼかしなど、デザインされた染色方法もある。



糸繰り　　染色後、経尺のため、カセ（糸の束）状態から、座繰り（ざぐり）で木枠に巻き取る作業。巻き取る際に絡まったり糸が切れたりしないように注意し、巻き始めはしっかりと伸ばして、糸が重なったり絡まったりしないように、枠にかけて糸繰りをする。この作業が一番重要で、最後まで糸が切れずに巻き取れるかどうかはここで決まる。



経尺　　糸を束ねる作業。作る紐に応じて、束ねる糸の本数・長さ・色・巻き取る枠の数をこの作業で調整する。



平糸

絹糸。生糸によりをかけず幾本かを合糸して練った柔らかい糸。よりがかかっていないので、扱いが難しい。釜糸、極天（ごくてん）とも言う。絖糸（すがいと）を精練した糸。絖糸は、よりをかけず、そのまま 1 本で用いる生糸。
奈良・平安・鎌倉時代に多く用いられている。したがって復元の組紐に主に使われている。

紛糸（まがいと）

絹糸。唐組に用いるよりの強い糸。1 玉 1 本で用いる。細糸、太糸。

撚り糸

絹糸。通常、帯締めなど組紐に用いる。一般的に組紐用の糸は帯締め用に切ってある糸が市販されている。2.8m, 3.3m 4.2m など。
8 玉用・・・1 玉に 84 本前後 合計 672 本
12 玉用・・・1 玉に 56 本前後 合計 672 本
16 玉用・・・1 玉に 42 本前後 合計 672 本
20 玉用・・・1 玉に 33 本前後 合計 660 本
24 玉用・・・1 玉に 28 本前後 合計 672 本
32 玉用・・・1 玉に 21 本前後合計 672 本

金属糸

撚金糸（よりきんし）。芯糸に平金糸を巻き付けた物で、断面が円形である。
組紐に用いる撚り金糸は丸撚り（まるより）で、芯糸（合成繊維）が見えないようにびっしりと金・銀の平糸（箔）を巻きつけたもの。引張強度が高いのも特徴。



クテ打の組紐

1

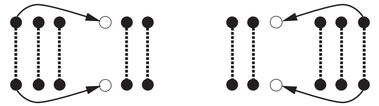
蛇腹組・角組・平組（重打）・角組２本・御岳組・丸源氏組・笹波組

クテ打の糸（ループ）の基本的な動き



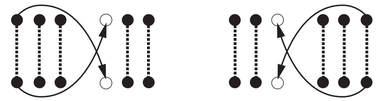
蛇腹組	左３本・右２本、左＝A、右＝A
角組	左３本・右２本、左＝B、右＝B
平組・重打	左３本・右２本、左＝A、右＝B
角組２本	左５本・右５本、1) 左＝A、右＝A、2) 左＝C、右＝C
御岳組	左５本・右５本、1) 左＝A、右＝A、2) 左＝D、右＝D
丸源氏組	左８本・右８本、1) 左＝B、右＝B、2) 左＝C、右＝C
笹波組	左６本・右６本、１本ずつ捻って、端の糸を通す。

A



手前からループを見た図。　●と●は繋がっている。
1. 左手左端のループを他２本の外側を通って右手の左端に渡す。
2. 右手右端のループを他２本の外側を通って左手の右端に渡す。

B



1. 左手左端のループを他２本の外側を通って右手の左端に捻って渡す。
2. 右手右端のループを他２本の外側を通って左手の右端に捻って渡す。

C



1. 左手左端のループを他２本の内側を通って右手の左端に渡す。
2. 右手右端のループを他２本の内側を通って左手の右端に渡す。

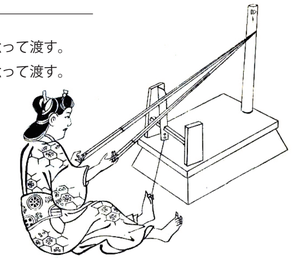
D



1. 左手左端のループを他２本の内側を通って右手の左端に捻って渡す。
2. 右手右端のループを他２本の内側を通って左手の右端に捻って渡す。

QRコードをスキャンし、
クテ打の基本動作を見る。
協力　（株）テクスト

製作者
多田真純





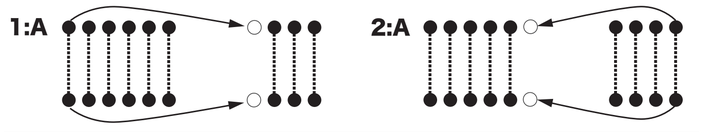
クテ打の組紐

2

8畝平組「常組」

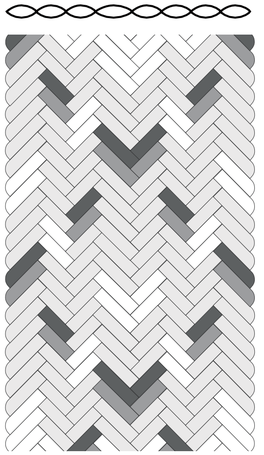
8畝平組「常組」

「左手に6本のループ、右手に3本のループ」「左手に8本のループ、右手に5本のループ」「左手に8本のループ、右手に7本のループ」などをかけ、左から、外真っ直ぐのA, 右から外真っ直ぐのA、左から中ひねりのD、右から中真っ直ぐのCの移動を行う。





6本3本　6本3本　6本3本　8本5本　8本5本　8本7本　8本7本





QRコードをスキャンし、
クテ打の基本動作を見る。
協力　（株）テクスト

製作者
多田真純



クテ打の組紐

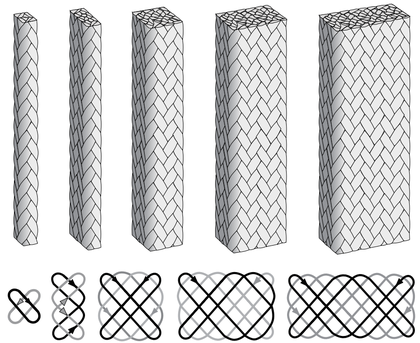
3

西大寺組・鞆淵組・中尊寺組

角組から発展した角組系組物

平安・鎌倉時代に組物の技術は頂点に達し、ループ操作で作られる組物も肉厚で立体的となる。角組を２個連結して二連角組、また二連角組が２個連結して四連角組、二連角組が３個連結して六連角組となる。これはさらにもう一歩進んで、鎌倉時代の二連角組が４個連結した八連角組へと進化する。

これら一連の連結角組の遺品としては、御嶽神社の御嶽組（二連角組）、西大寺経巻錦袋の紐・中尊寺金色堂藤原秀衡の棺納入の組紐・鞆淵八幡宮神輿総角の紐（四連角組）、四天王寺懸守の紐・春日大社の太刀の緒（六連角組）、熊野速玉大社・御嶽神社・三島大社・春日大社の両面亀甲組（八連角組）が挙げられる。それぞれ所蔵寺社や模様により、西大寺組・中尊寺組・四天王寺組・両面亀甲組と一般に呼ばれている。



西大寺組

経巻錦袋の紐、56 条、4 連角組、幅 3mm x 厚さ 3mm、重文
西大寺の本尊は、釈迦如来立像（重文 1249 年　仏師善慶の作）で、その像内には多数の納入品が納められていた。この紐は 釈迦如来立像頭部納入の悲華経を包む経巻錦袋に付随している紐である。
2 人で組む。各手に 7 ループずつ、合計 28 ループ。条数は 56 条となる。

鞆淵組

神輿の総角の紐、88 条、4 連角組、幅 10mm x 厚さ 10mm、平安時代、重文
この紐がついている神輿は沃懸地（いかけぢ）螺鈿（らでん）金銅装神輿で重文である。
1228 年京都・石清水八幡宮から所領別院である鞆淵（ともぶち）八幡神社へ奉送されたと伝えられている。

中尊寺組

中尊寺蔵、藤原秀衡の棺納入の組紐、72 条 4 連角組、幅 7mm x 厚さ 7mm, 重文
中尊寺金色堂藤原秀衡（1122 ～ 1187 年）の棺からミイラとともに出た紐。首のあたりから発見されたので懸け守りの紐と推定されている。この当時の陸奥の金の産出量は、ぼう大で、奥州の藤原氏は、栄華をきわめ、都の文化を取り入れ、豪華きわまる生活をしたとされる。この特別な紐も、都から取り寄せたか、職人を連れてきて作らせたと考えられる。



QR コードをスキャンし、
クテ打の基本動作を見る。

協力　（株）テクスト

製作者
多田真純



知恩院組・春日大社組

知恩院組

知恩院蔵、善導大師立像納入五臓の組紐、80 条、内部に奈良組を持つ五間丸組、鎌倉時代、重文
知恩院本堂に安置されている木造彩色・玉眼の善導大師立像を 1962 年に修理した際に像の内部から染織品で作られた五臓六腑が発見された。この組紐は大腸の部分に使われていたものである。外観は 8 畝の丸唐組で、中に芯として角組 2 本が入っている。一定間隔で芯の組紐に使われている糸と外側を覆う糸が入れ替わり、緑のみの部分、紺のみの部分、紺と黄色の横縞模様の部分の構成となっている。





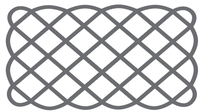
春日大社組

春日大社蔵 , 太刀の緒、132 条、6 連角組、幅 15mm x 厚さ 7mm、鎌倉時代、国宝

沃懸地酢奨紋兵庫鎖（いかけじかたばみもんひょうごぐさり））の太刀の佩緒で、一体化している部分と 3 本の角組が 2 枚の平組にはさまれてる部分がある複雑な構造の組紐である。現在は黄色と褐色に見えるが作られた当時は紫と白ではなかったかと推測される。上下面は綾模様、側面は亀甲模様。

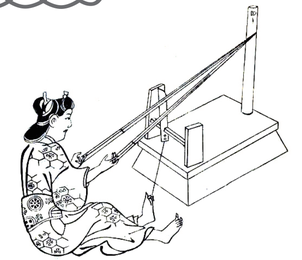






クテ打の組紐

4



QR コードをスキャンし、
クテ打の基動作を見る。

協力　（株）テクスト

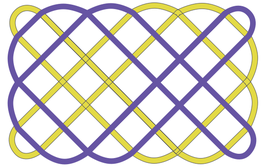
製作者
多田真純



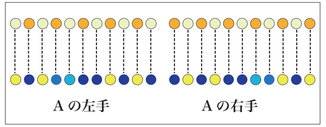
四天王寺組　２本

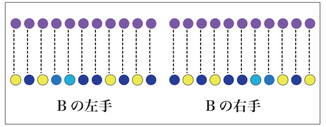
四天王寺組

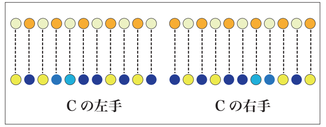
四天王寺蔵の懸守の紐、２種類ある。132 条、６連角組、幅 10mm x 厚さ 5mm、平安時代、国宝。
片手に 11 ループ、合計 22 ループずつ持った３人で、糸を受け渡ししながら組む。合計 66 ループである。
　この紐が付いていたのは、大きさは高さが 7.2cm、幅が 8.1cm という小型の工芸品の懸守である。懸守とは寺社から授かった護符を納めた容器で、ひもを付けて首からつるして用いた。今でいうお守り袋である。四天王寺には７点の懸守が伝わっている。本体はヒノキ材を断面だ円形の筒状に加工したものを使用していて、それを２つに割って内部をくりぬき、護符を入れて張り合わせた後、色糸で細かな文様を織り出した錦でくるみ、上部角の２カ所に環（かん）を取り付け、ひもを通して出来上がる。



4×6角組
経路数2

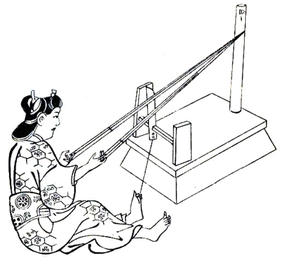






クテ打の組紐

5



QR コードをスキャンし、
クテ打の基本動作を見る。

協力　（株）テクスト

製作者
多田真純



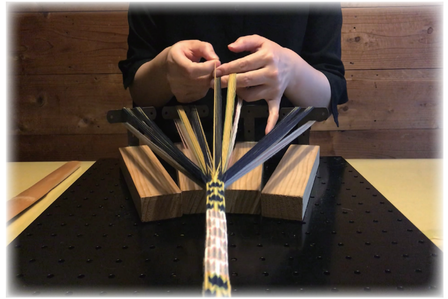
両面亀甲組

両面亀甲組

4 人で糸を受け渡しして組む。一人で組む場合は糸休めを用意する。

● 熊野速玉大社蔵　両面亀甲組：144 条　8 連角組　幅 17mm　厚さ 5mm　鎌倉時代　国宝
1180 年頃藤原秀衡が寄進したものとも、1392 年に奉納された装束の紐とも言われている。3 種類残されていて、いずれも 8 本の麻糸が芯糸として組み込まれている。
● 御嶽神社蔵　両面亀甲組：144 条　8 連角組　幅 17mm　厚さ 9mm　鎌倉時代
鎌倉幕府七代将軍惟康（これやす）親王が弘安の役（1281）の際、蒙古撃退祈願のため奉納した大鎧（紫裾濃鎧、重文）の繰締緒とのいわれがある。8 本の麻糸が芯糸として組み込まれている。威毛は 白、黄、淡紫、紫と染められて、裾に行くにしたがって色の濃い紫糸となっている。
● 三嶋大社蔵　両面亀甲組：144 条　8 連角組　幅 15mm　厚さ 5mm　鎌倉時代
1180 年頃、源頼朝の妻北条政子が奉納した梅蒔絵手箱（国宝）の紐とのいわれがある。現在、東京国立博物館に寄託。
● 春日大社蔵　両面亀甲組：144 条　8 連角組　幅 14mm　厚さ 5mm　鎌倉時代　国宝
国宝「赤糸威鎧 兜、大袖付」（梅鴛金物）の繰締緒として残されている。この 赤糸威鎧は「八幡太郎」こと源義家所用とも言われる大鎧で、その作風と彫金金物の意匠から鎌倉時代後期の作と見られている。元は深紅だった威毛も現在は黄褐色に変色している。



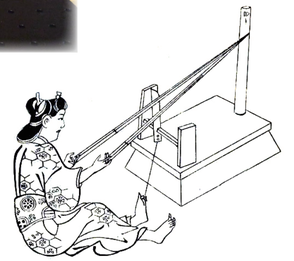


QR コードをスキャンし、
クテ打の基動作を見る。
協力　（株）テクスト

製作者
多田真純

クテ打の組紐

6



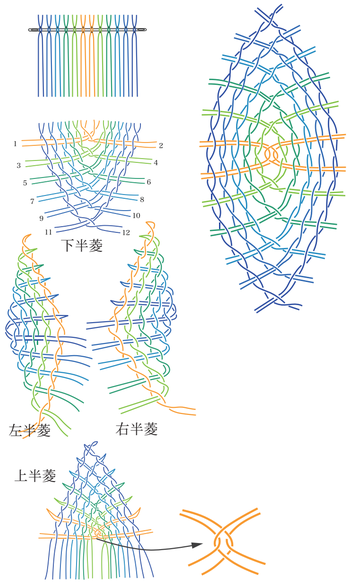


唐組台の組紐

1

六桁五菱・六桁二菱・六桁十菱

唐組組み方の基本



唐組台

唐組台は、唐組平緒を組むために平安時代に考案されたと考えられる、木釘が植えてある約 30〜35cm 四方の四角い木枠に足が付いた唐組を組むための道具である。一度に組むことができるのは 1 菱のみであるから、この小さい台で幅の広いものも、円形唐組も組むことができる。平たく軽いおもり玉「平玉」を組み糸につけるが、おもりの重さではなく指の力で引き締めて組む。平玉の代わりに現在はプラスチックボビンを使う事も多い。唐組平緒用の糸を紛糸（まがいと）と言う。紛糸は 21 中の生糸を 52 本二合（ふたこ）にして 104 本を右撚りにしたものである。唐組台では、糸を捻ってその間に糸を通して菱を組んでいくが、糸組みの捻りの方向は右半菱も左半菱も全て右捻りである。したがって表裏が無く、つまりどちらを表にしても使うことができる。唐組平緒は太刀を佩（は）く幅約 8 〜 10cm、長さ約 250cm の帯で、平安時代の貴族男子五位以上に用いられたものである。

六桁五菱（試作）

唐組は糸が中心から菱形に並んでできている。その菱糸の列 (筋) を「桁」とよぶ。1 桁を構成するのに 4 本の糸が必要である。通常、6 桁や 8 桁が多い。 6 桁の菱は 1 菱 24 本の糸で構成され、1 菱 8 桁の菱は 32 本で構成される。それぞれ小菱を作る場合は 3 桁と 4 桁の子菱となる。

六桁二菱　小菱縦糸入り（試作）

6 桁の菱の糸を二つに分けて中央部分に 3 桁の小菱を 4 個作ったもの。平緒は両端に縦に白い糸を配置して縦に繋がる線を組む。

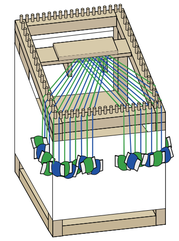
六桁十菱（試作）

人間用の平緒は菱が横に 10 個並び、神様用は 13 個並ぶ。中央部分は無地の菱、両端は配色して小菱を組む。また縦に白い縦糸を配して縦に繋がる線を組む。

QR コードをスキャンし、
唐組台で組む動作を見る。

協力　（株）テクスト

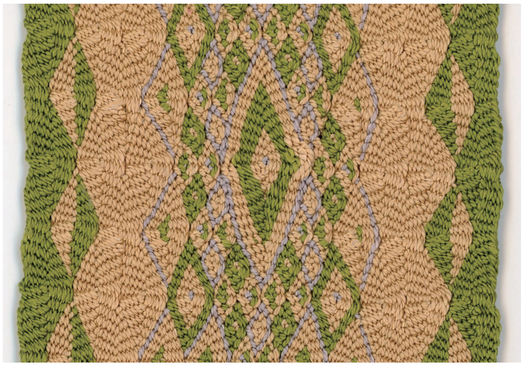
製作者
清澤澄江・多田牧子



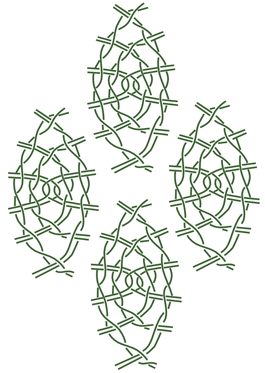


六桁十菱（試作）

中央部分に小菱と 12 桁の大菱を配した試作である。
幅 10cm、唐組部分の長さ 166cm



小菱の構造



小菱と大菱の例



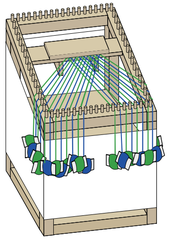
QR コードをスキャンし、
唐組台で組む動作を見る。

協力　（株）テクスト

製作者
清澤澄江

唐組台の組紐

2



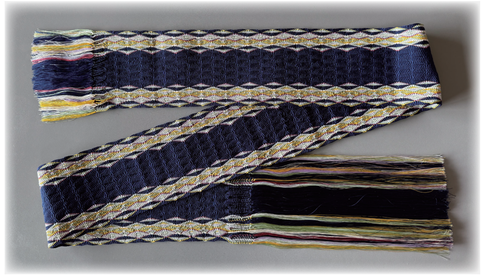


唐組台の組紐

3

八桁十菱（唐組平緒 試作）

鷹司誓玉著の「唐組平緒」には、徳川慶喜のために調製した平緒に使用した糸として、「井関家文書」に「紺染糸 194 本、萌黄 35 本、うこん 30 本、浅黄 26 本、薄色 26 本、紅 13 本、計 324 本」の記述があるとのことである。どのような糸配置かはわからないが、この組見本は八桁十菱として制作したものである。幅 12.5 cm、唐組部分の長さ 28 cm。糸は紛糸ではなく組紐用本絹糸を 1 玉に 12 本使用している。下の写真の平緒の場合は幅を 10 cm にするために 1 玉 8 本の絹糸を用いている。



唐組平緒とは

平緒は太刀を佩（は）く幅約 8〜10cm、長さ約 250cm の帯である。この時代の男子の礼服は束帯で、袍（ほう、うえのきぬ）の色が位により定められていた。四位以上が黒、五位が蘇枋、六位は縹であった。そこで身分の高い四位以上の人々は黒袍で、趣向をこらせるのは平緒しかなかった。平緒にも規定があり、五位以上は唐組、六位以下は綺（かんばた、織紐）または新羅組（一間組）と決まっていた。そこで高位の人々は、優雅な唐組平緒で美しさを競ったと考えられる。

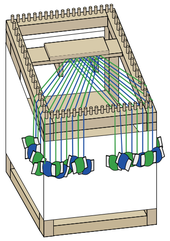
木下和子作



QR コードをスキャンし、
唐組台で組む動作を見る。

協力　（株）テクスト

製作者
清澤澄江





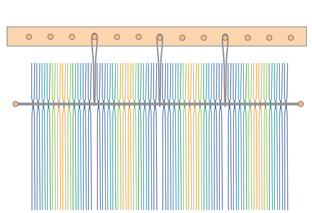
八桁四菱筒状唐組の帯締め

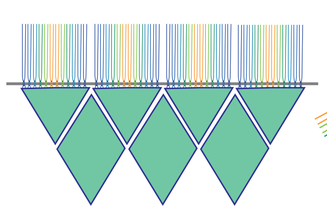
八桁四菱筒状唐組の帯締め

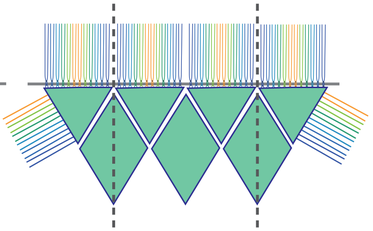
筒状唐組とは唐組の端と端をつなげて筒状にした唐組のことである。唐組平緒は右半菱も左半菱も全て右捻りで制作するが、この帯締めは唐組制作の捻りの方向は丸台の唐組のように左右対称。128 玉使用。

筒状にするには

筒状にしたい数の下半菱を組み（ここでは 4 菱）、下の図のように点線の位置で手前に折り曲げ、両端からの糸で 1 個の菱を組む。これで両端がつながって筒状になる。最初の糸の準備は半菱分ずつまとめても良い。





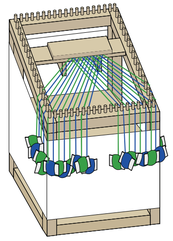


QR コードをスキャンし、
唐組台で組む動作を見る。
協力　（株）テクスト

製作者
清澤澄江・西　幾代

唐組台の組紐

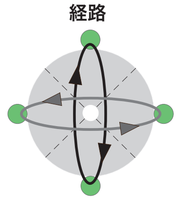
4

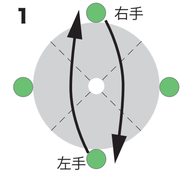


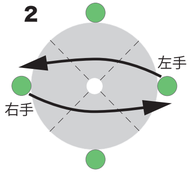
丸台の組紐

1

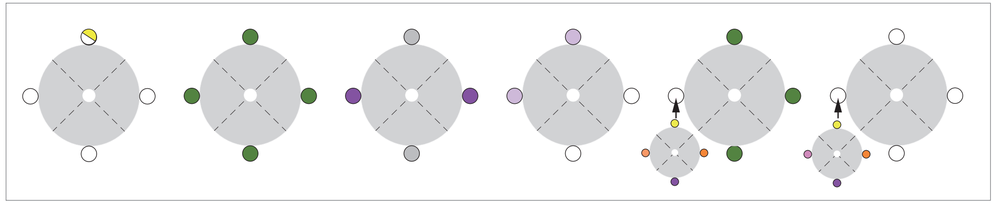
丸四つ組







配色例

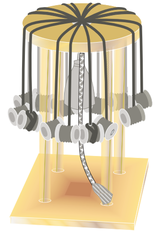


QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

小嶋博子、岡本睦子、多田牧子

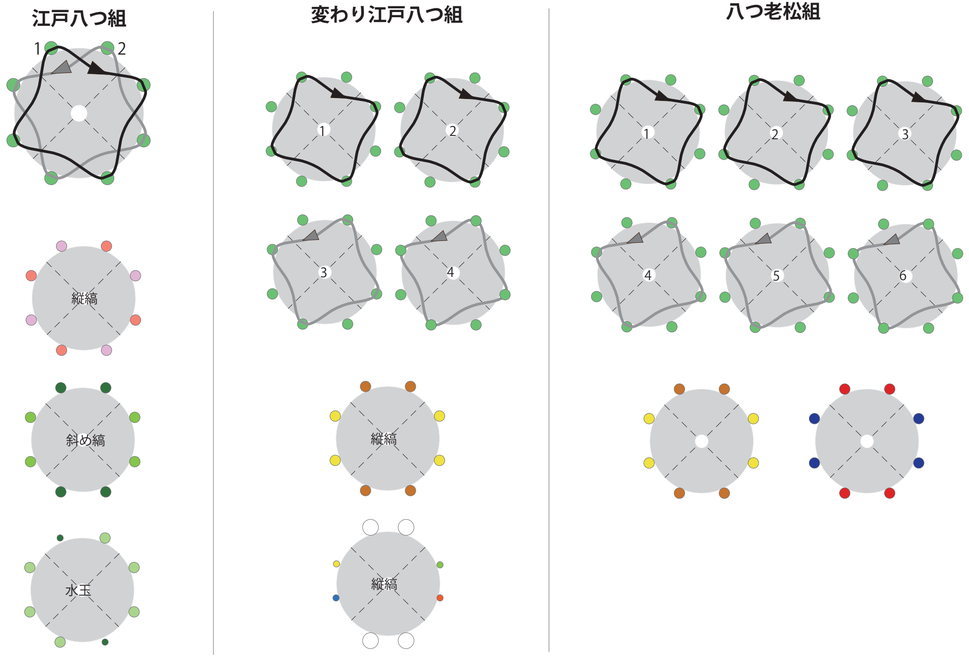




丸台の組紐

2

江戸八つ組：かわり江戸八つ組・八つ老松

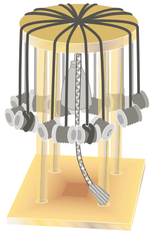


QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

小嶋博子・岡本睦子・多田牧子



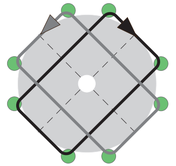


丸台の組紐

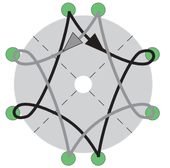
3

角八つ・八つ瀬組

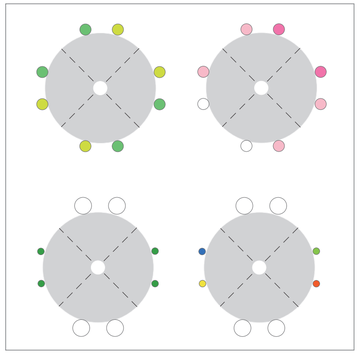
角八つ組



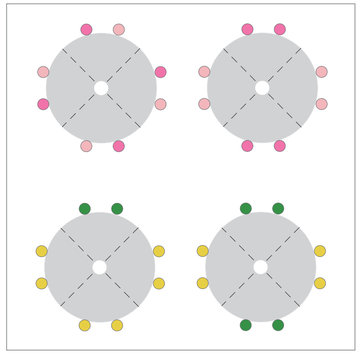
八つ瀬組



配色例



配色例

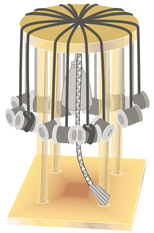


QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

多田牧子

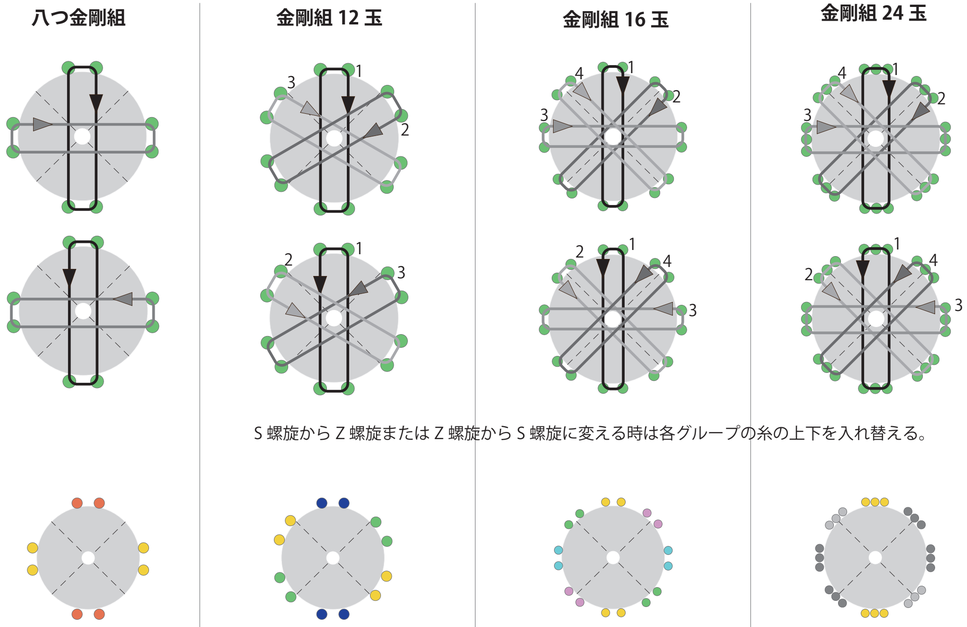




丸台の組紐

4

金剛組：八つ金剛・12・16・24 金剛

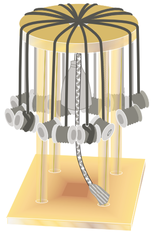


QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

小嶋博子・岡本睦子・清澤澄江・多田牧子



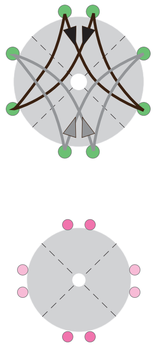


丸台の組紐

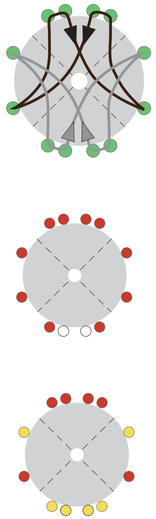
5

唐八つ組・平唐 12・平唐 16

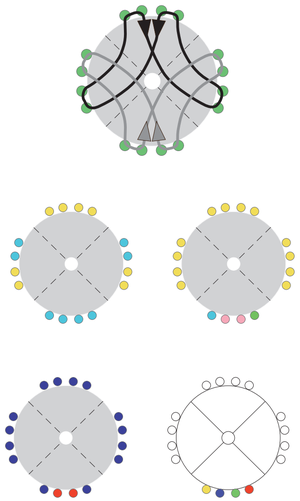
唐八つ組



平唐 12 玉



平唐 16 玉

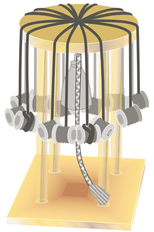


QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

清澤澄江・多田牧子

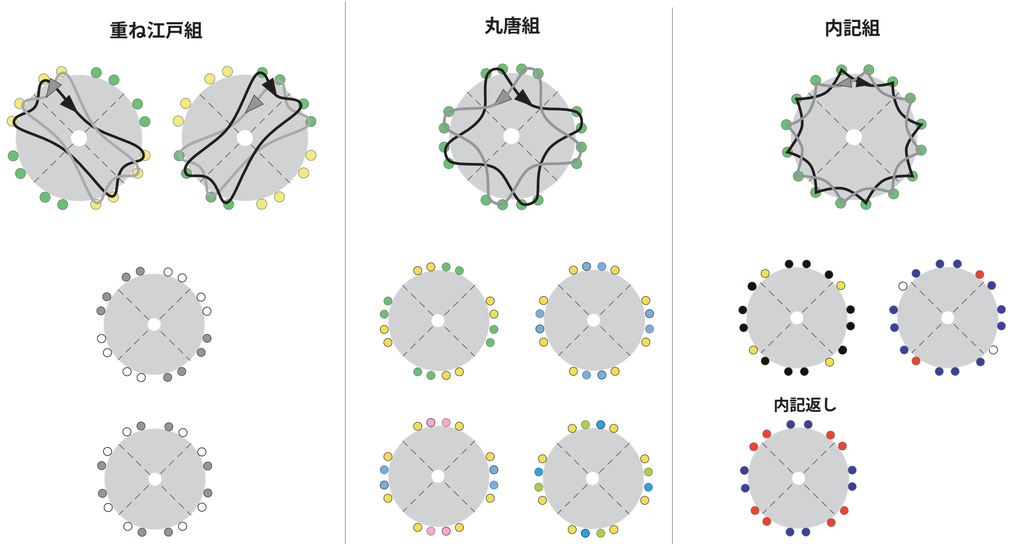




丸台の組紐

6

重ね江戸組・丸唐組・内記組

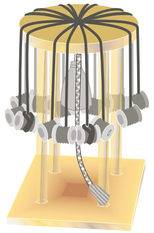


QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

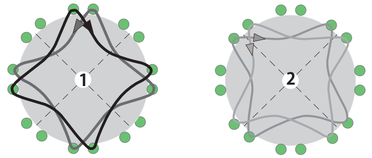
清澤澄江・多田牧子・丸山文乃





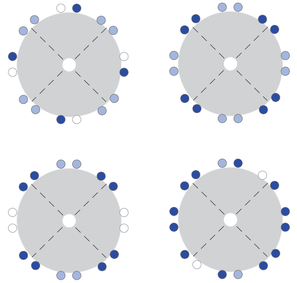
老松・平老松・籠目組

老松組 16 玉



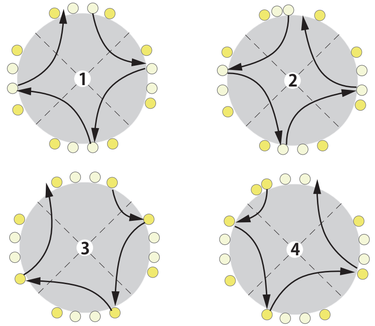
縦横の糸だけで１を３回、斜め位置の糸だけで２を３回組むを繰り返す。
または１を２回、２を２回を繰り返す。

配色例

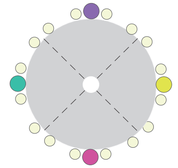


平老松 16 玉

１と２を３回、３と４を３回、交互に組む。



籠目組 20 玉



老松組の組目の中から配色糸がのぞく美しい組紐。配色糸は地糸の太さの２倍以上にする。

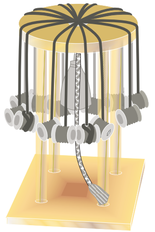
QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。
協力　昇苑くみひも

製作者

銭谷信子・丸山文乃

丸台の組紐

7



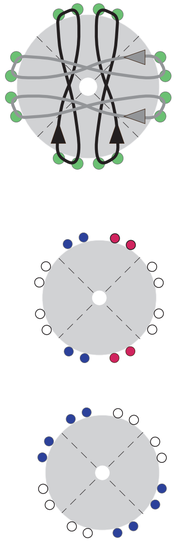


丸台の組紐

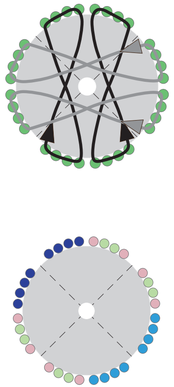
8

丸源氏・大和源氏

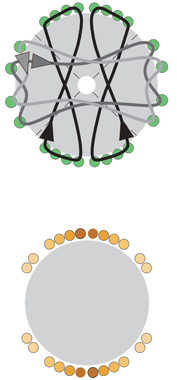
丸源氏組 16 玉



丸源氏組 32 玉



大和源氏組

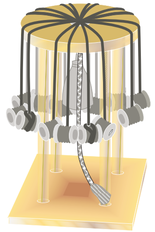


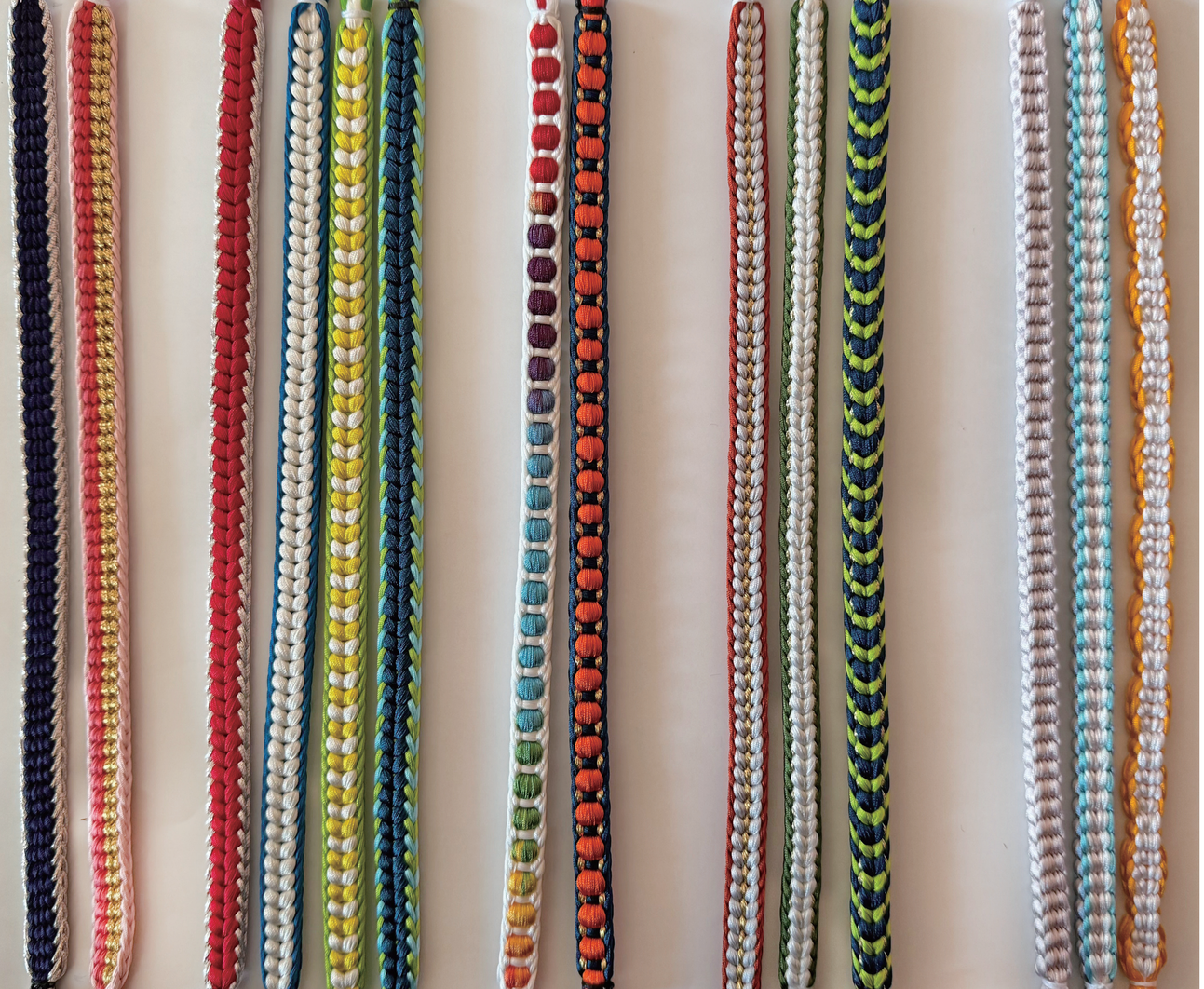
QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

多田牧子・丸山文乃

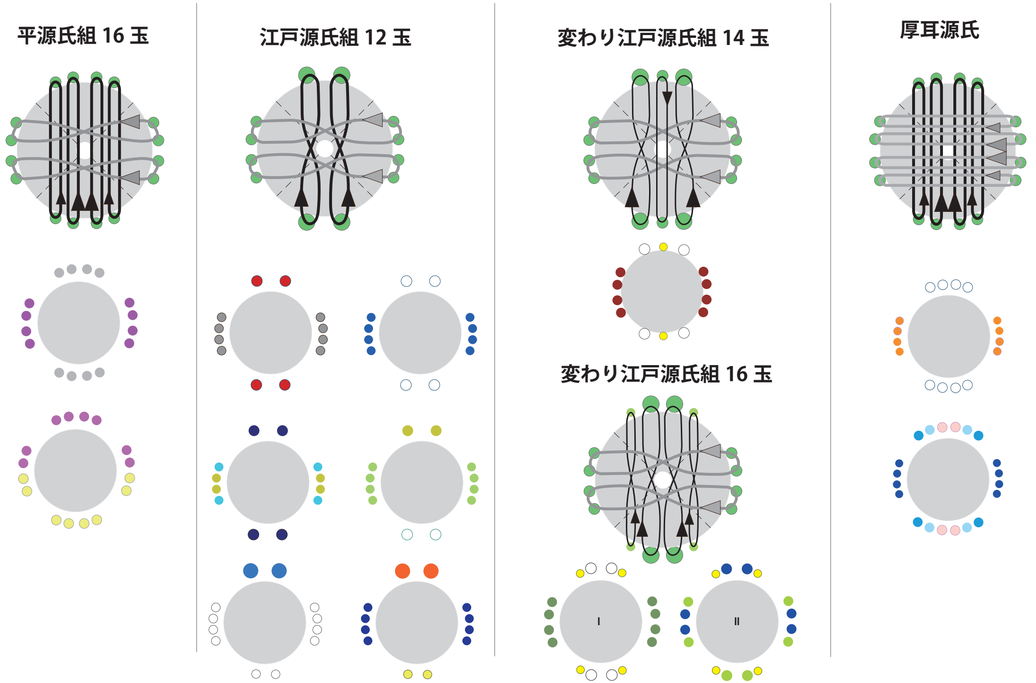




丸台の組紐

9

平源氏・江戸源氏・厚耳源氏

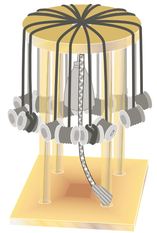


QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

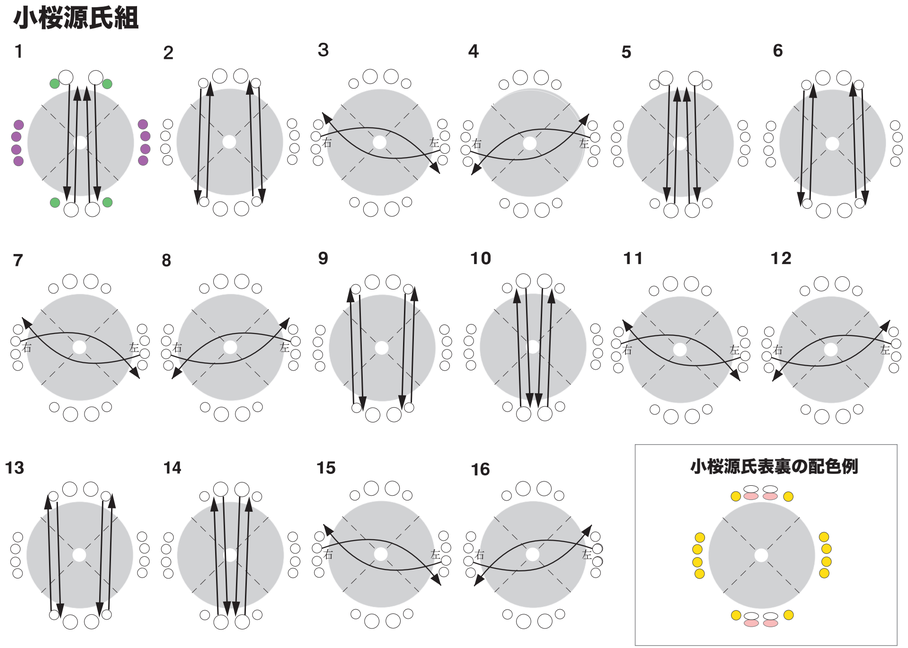
製作者

小嶋博子・清澤澄江・多田牧子・西　幾代





小桜源氏・小桜源氏表裏違い

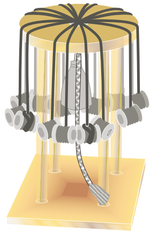


QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

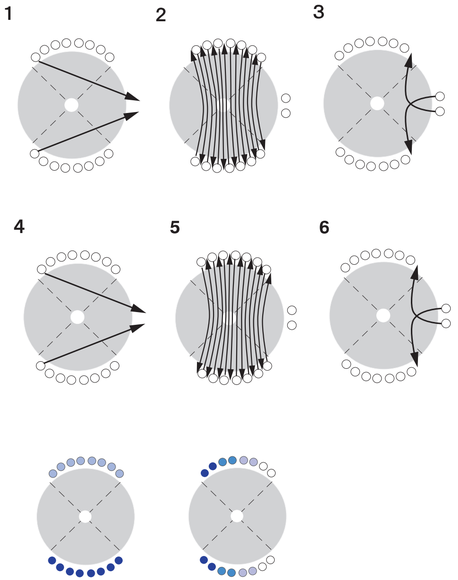
小嶋博子・西　幾代



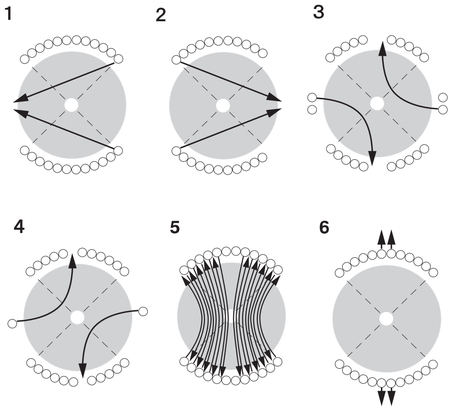


片瀬・笹波

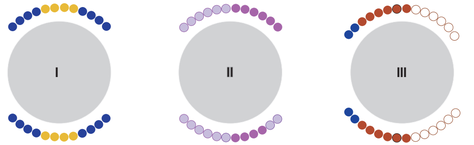
片瀬組



笹波組



配色例



QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

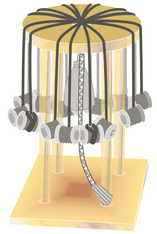
協力　昇苑くみひも

製作者

多田牧子・丸山文乃

丸台の組紐

11



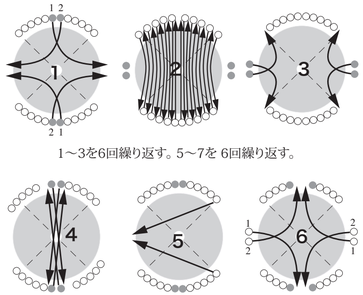


丸台の組紐

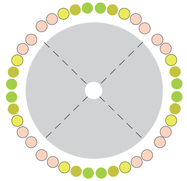
12

丸台唐組・唐組合わせ・双び唐組

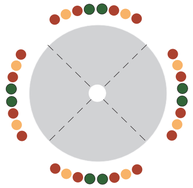
唐組 24 玉



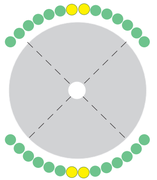
唐組合わせ 40 玉



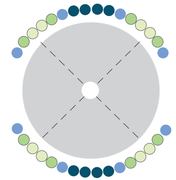
双び唐組



唐組 28 玉



唐組合わせ 32 玉

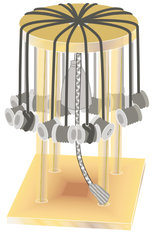


QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

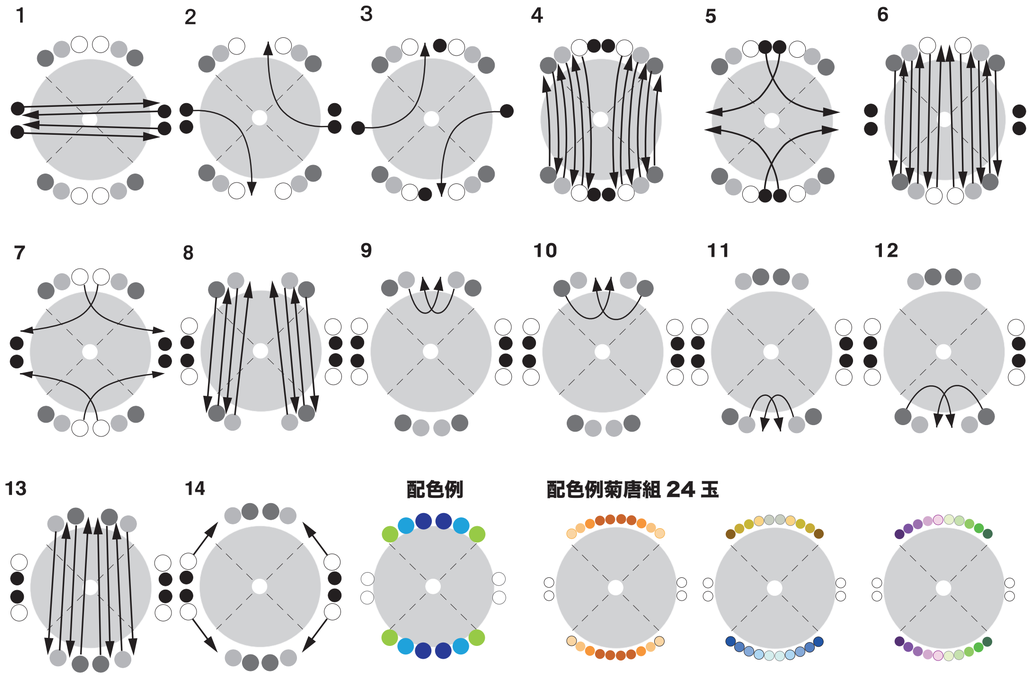
製作者

梅原初美・多田牧子・西　幾代





菊唐組



QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

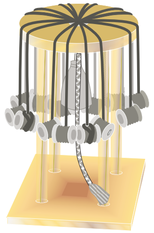
協力　昇苑くみひも

製作者

多田牧子

丸台の組紐

13



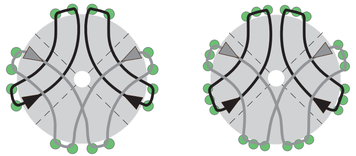


丸台の組紐

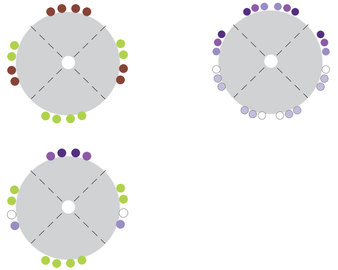
14

ゆるぎ・奥ゆるぎ・御岳

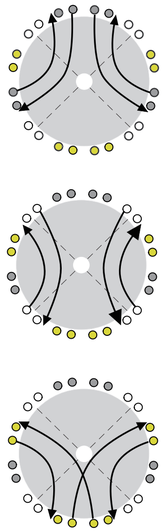
ゆるぎ 16 玉・24 玉（冠組）



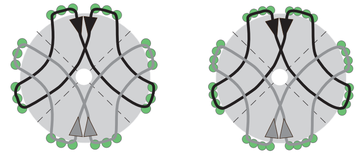
配色例



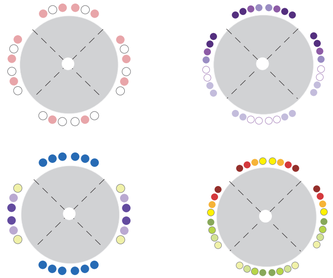
奥ゆるぎ



御岳組 24 玉・32 玉



配色例

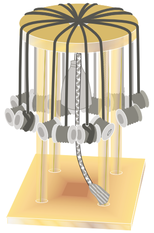


QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

小嶋博子・多田牧子・丸山文乃



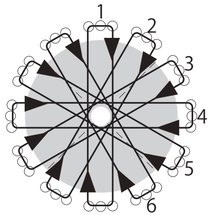


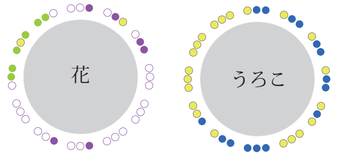
丸台の組紐

15

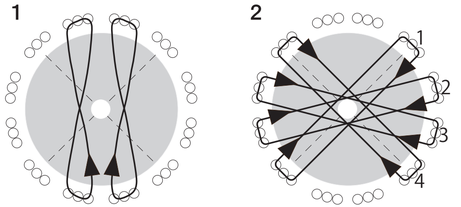
花金剛・うねり金剛

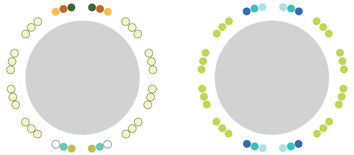
金剛組 36 玉

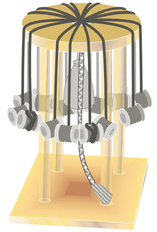




うねり丸源氏組







QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者
多田牧子

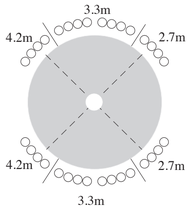


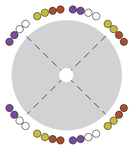
丸台の組紐

16

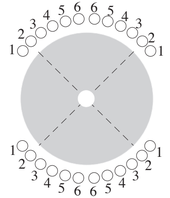
槍垣・枡組・吉原つなぎ・六畝平組

槍垣組 32 玉

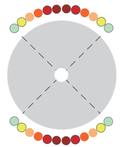




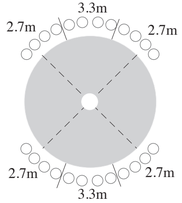
桝組 24 玉

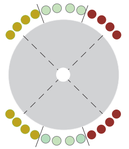


1: 1/24 (4.2m) x 4玉
2. 3: 1/24 (3.3m) x 8玉
4. 5. 6: 1/24 (2.7m) x 12玉

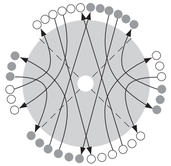


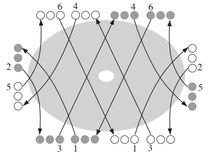
吉原つなぎ組 24 玉

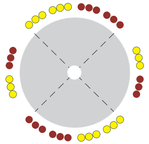


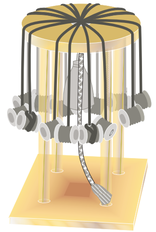


六畝平組 36 玉









QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

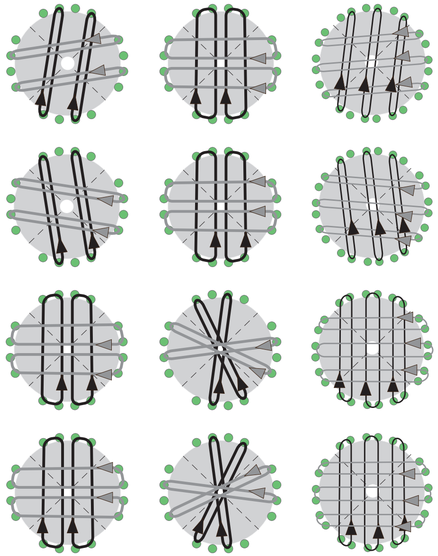
多田牧子



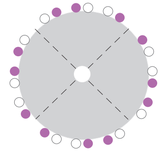
アンデスの丸角組

アンデスの組紐の経路（基礎）

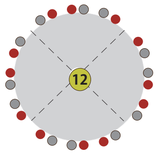
アンデスの丸角組は片手で組んだ部分を持ち、片手で糸を動かすのでその経路は、日本の組紐と違うものになる。



角山型＋角菱



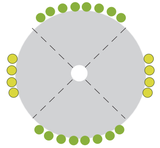
色変わり 2 色角山型



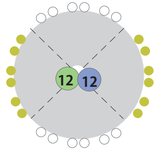
3 色角菱



厚平網菱



4 色角面



QR コードをスキャンし、丸台で「ゆるぎ」を組む動作を見る。

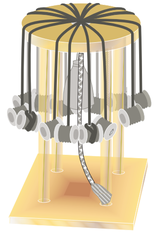
協力　昇苑くみひも

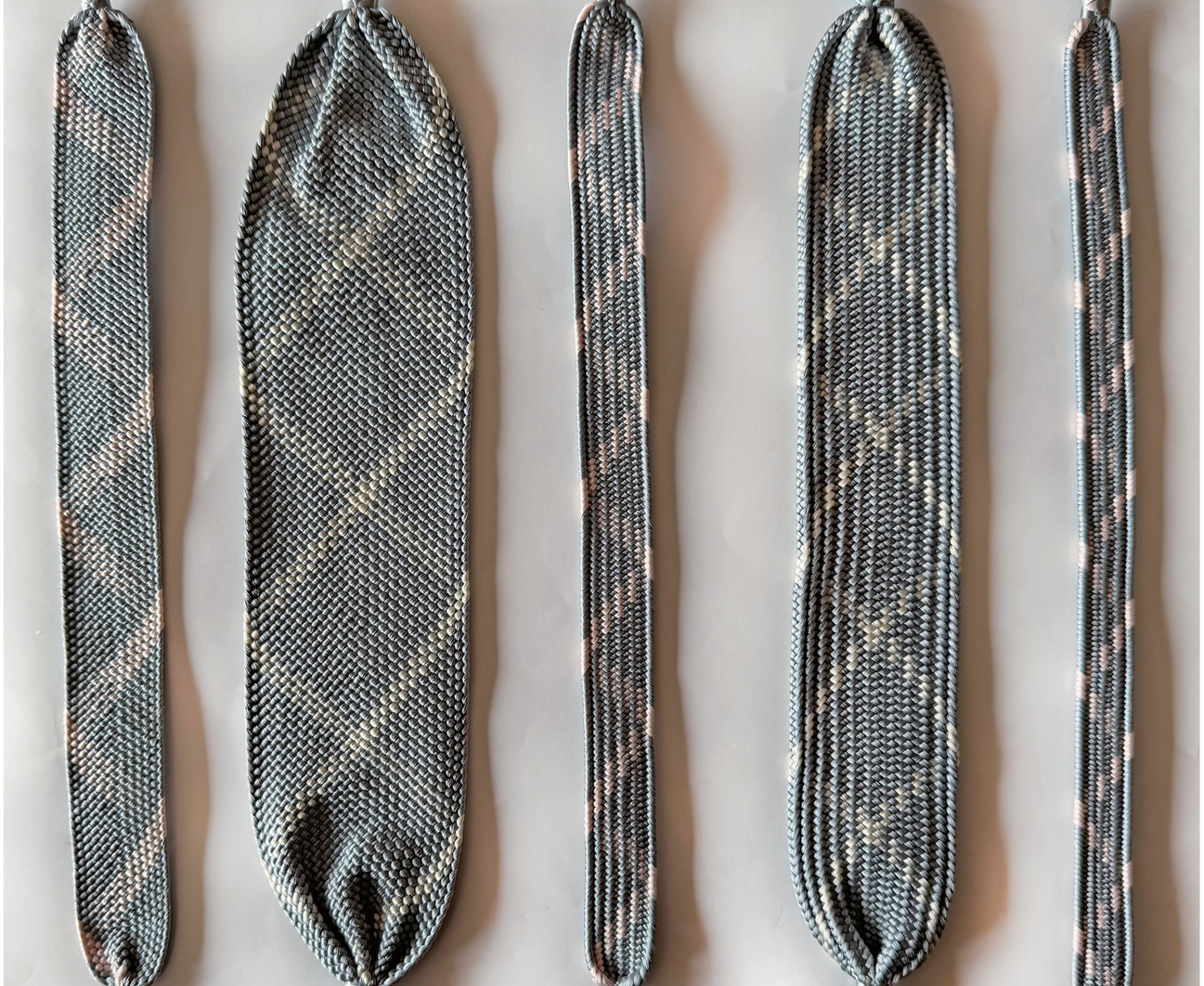
製作者

多田牧子

丸台の組紐

17





高台の組紐

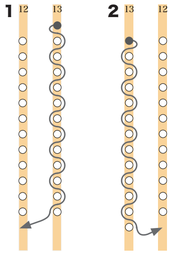
1

安田組・高麗組・常組

安田組（一間組）

25玉・47玉



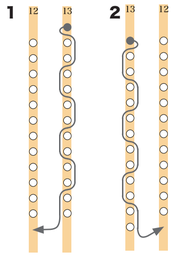


右側から１上げ・１下げ・１上げ・１下げと手で綾を取り、その隙間に刀（へら）を通して固定し、一番向こうの糸を通す。

高麗組（二間組）

25玉・47玉



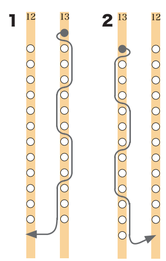


右側から２上げ・２下げ・２上げ・２下げと手で綾を取り、その隙間に刀（へら）を通して固定し、一番向こうの糸を通す。

常組（三間組）

25玉





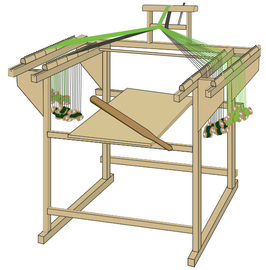
右側から３上げ・３下げ・３上げ・３下げと手で綾を取り、その隙間に刀（へら）を通して固定し、一番向こうの糸を通す。

QRコードをスキャンし、高台で笹波組・一間組を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

梅原初美・八田　俊

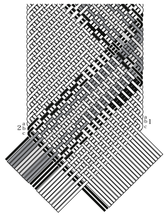


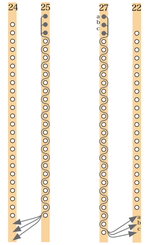


高台の組紐 2

笹波組（49 玉）・青海波・笹波返し・菱笹波組・菱花笹波

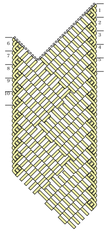
笹波組

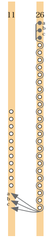




綾の取り方は一間組と一緒だが通す糸は 3 本である。V 字型の畝が出る組み方。

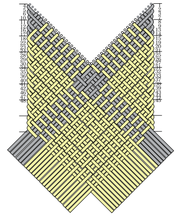
青海波組

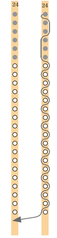




笹波の変形で青海波の地模様ができる。

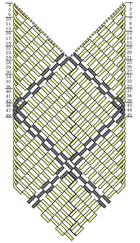
笹波返し組

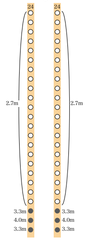




笹波の変形で、中心部と両端に配色糸がのぞく。48 手順と工程が長い。

菱笹波組

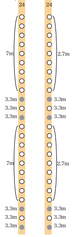




笹波の上に配色糸で菱模様を組み出したもの。

菱花笹波組





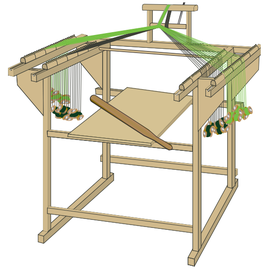
菱笹波の中に配色糸で花模様を組み出したもの。

QR コードをスキャンし、高台で笹波組・一間組を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

梅原初美・多田牧子・丸山文乃





高台の組紐 3

半重ね唐組・鼓組・変わり笹波・笹波大和・変わり貝の口浮舟（58 玉）

半重ね唐組



右半分は笹波組で左側は 3-3-3 と綾をとって 1 本ずつ交互に通す逆笹波である。途中で方向を変えジグザクになる。

鼓組



笹波組を基本とした青海波を発展させたもの、鼓のように見えるのでこの名前がある。

変わり笹波組



笹波組 2 段と逆笹波組を交互に組んだもの。立体感のある組紐ができる。

笹波大和

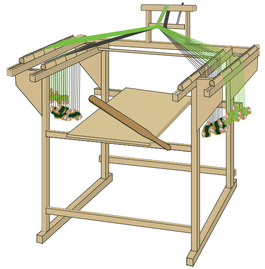


笹波組の上に糸足の長い V 字の矢羽模様ができる組み方。無地でも美しい。」

変わり貝の口「浮舟」



固く閉まる組紐ということから名付けられた「貝の口」の組み方を少し崩した組み方。



QR コードをスキャンし、高台で笹波組・一間組を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

梅原初美・田村由美・
多田牧子・西　幾代



高台の組紐

4

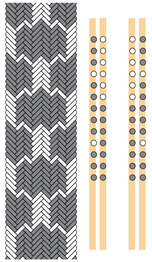
笹波高麗＋青海波高麗・片面亀甲・64 玉
両面亀甲・厳島組・厳島組二枚組

笹波高麗組（青海波）



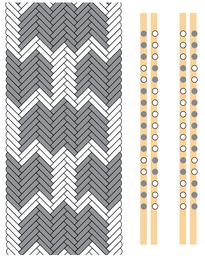
笹波組と高麗組の二枚合わせの多田牧子考案の組。下段で高麗組を２段組み、上段でささなみ組を１段組む。上段を組むときに下段の糸を引っかけて二枚をつなぐ。

片面亀甲



上下段ともに、3-3 綾で一体化したもので、片面だけ亀甲柄ができる。刀の下げ緒や鎧の繰り締め緒に多用された。組み方は「止戈枢要」に収録。

64 玉両面亀甲



表裏ともに亀甲柄ができる。組み方は「止戈枢要」に収録されている。手順は６通りであるが、上下の糸の入れ換えが３回ある。

厳島組



厳島神社に残された平家納経の経巻についている組紐なのでこの名前で呼ばれる。元々はクテ打で作られたものだが、高台でも組むことができる。

厳島二枚組



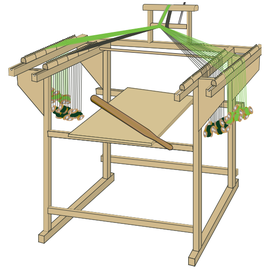
厳島組は巻物の紐なので薄くて柔らかい。厳島二枚組は帯締めにするために裏に高麗組をつけてしっかりとさせたものである。

QR コードをスキャンし、高台で笹波組・一間組を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

銭谷信子・多田牧子・三上扶実子



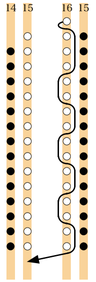


高台の組紐 5

小桜組・青海波鹿子・和＋千羽鶴・叢・菊紋（92 玉）

二枚高麗組

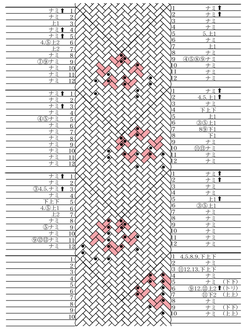
二枚高麗組は 2-2-2 と綾をとる高麗組を 2 枚合わせたもの。60 玉で作る場合は、手取りは下段は下げから、上段は上げから始まる。耳の部分で上下段の糸をからませ、袋状の組紐となる。手取りと上下段の糸の交換でいろいろな柄を作ることができる。本高麗とも言う。通常、60 玉、68 玉、72 玉。



菊紋 92 玉



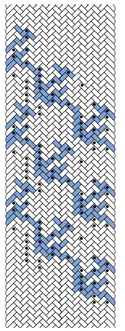
小桜 60 玉



青海波鹿子 60 玉



千羽鶴 68 玉



叢 68 玉





QR コードをスキャンし、高台で笹波組・一間組を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

多田牧子・西幾代・三上扶実子

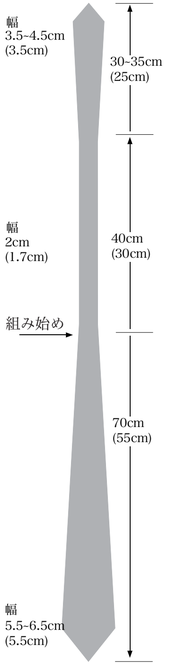


厳島（ネクタイ）

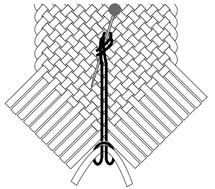
ネクタイ「厳島」

組む手順

糸の中央部から、首回りの細いところを先ず組み、ネクタイを締めた時下になる細い方を糸を足しながら組み上げる。次に高台から一旦外し、また中央部から広い方へと糸を足しながら組み進める。



糸の足し方





高台の組紐

6



QR コードをスキャンし、高台で笹波組・一間組を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

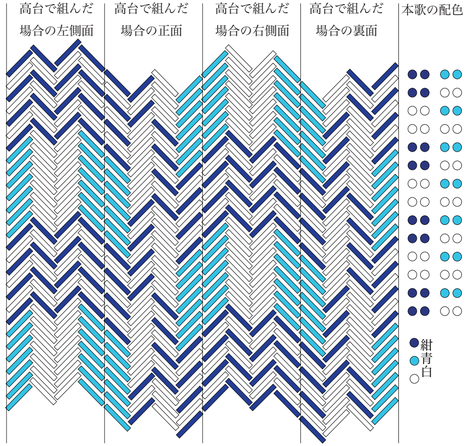
西幾代



中尊寺組・西大寺組

西大寺組

西大寺の釈迦如来像納入経巻錦袋の紐の組み方である。本歌は、横に並んだ組み手二人で打ち込む人一人、または横に並んだ組み手二人がそれぞれ足打ち台を用いてループ操作で組まれたと考えられる。ここでの組み方は、その手法の組織を推量し、高台用になおしたものである。高台で組んだ方がループ操作より組目が揃うが固くできるので注意すること。手取りは左側から始める。　　帯締めの場合；1 玉手持ち絹糸 13 本 -56 玉



中尊寺組

中尊寺金色堂藤原秀衡の棺から藤原秀衡（1122 ～1187 年）のミイラとともに出た紐をこの名前で呼ぶ。元はクテ打で作られたものであるが、ここでは高台で組んでいる。
本歌は、中尊寺蔵。72 条の 4 連角組である。幅 7mm　厚さ 7mm　重文金色堂中央須弥壇（しゅみだん）の下に奥州藤原氏三代の遺体を収めた棺が安置されていた。この紐はその棺の中のミイラの首のあたりから発見されたので掛守の紐と推定されている。



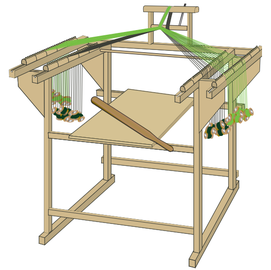
QR コードをスキャンし、高台で笹波組・一間組を組む動作を見る。
協力　昇苑くみひも

製作者

多田牧子

高台の組紐

7





両面亀甲（144 玉）

鎌倉時代の作とされる両面亀甲組の組紐は熊野速玉大社、武州御嶽神社、三嶋大社、春日大社に残されている。クテ打で作られたという説を木下雅子が提言し、多田牧子はこの提言に従って、まずループ操作で、続いて高台を用いて両面亀甲を制作した。

● 熊野速玉大社蔵　幅 17mm　厚さ 5mm　鎌倉時代（国宝）
1180 年頃藤原秀衡が寄進したものとも、1392 年に奉納された装束の紐とも言われている。3 種類残されていて、いずれも 8 本の麻糸が芯糸として組み込まれている。
● 武州御嶽神社蔵　幅 17mm　厚さ 9mm　鎌倉時代
鎌倉幕府七代将軍惟康（これやす）親王が弘安の役（1281）の際、蒙古撃退祈願のため奉納した大鎧（紫裾濃鎧、重文）の繰締緒とのいわれがある。8 本の麻糸が芯糸として組み込まれている。
● 三嶋大社蔵　幅 15mm　厚さ 5mm　鎌倉時代
1180 年頃、源頼朝の妻北条政子が奉納した梅蒔絵手箱（国宝）の紐とのいわれがある。現在、東京国立博物館に寄託。
● 春日大社蔵　幅 14mm　厚さ 5mm　鎌倉時代（国宝）
国宝「赤糸威鎧 兜、大袖付」（梅鴛金物）の繰締緒として残されている。





熊野速玉大社の両面亀甲 (撮影、多田牧子)

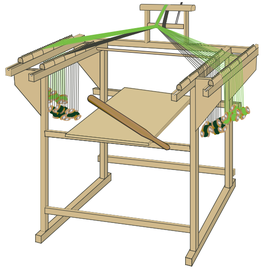
高台の組紐

8

QR コードをスキャンし、高台で笹波組・一間組を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者
多田牧子





アンデスの組紐（80 玉）

アンデスの平組は古く頭帯として使われた。精緻に作られた平組紐が世界中の博物館に収蔵されている。
しかし残念なことに現在は作られていない。

振り笹波

豊雲記念館（旧小原流芸術参考館）所蔵の組紐を参考に、通常の笹波組に振り組を加えた組紐。高台２段物。



振り菱つなぎ

通常は２組で組む振りを４色、つまり４段階て元に戻る技法で菱模様を高台で組んだもの高台２段物。写真はサンプル。



振り四つ組柄

Textile Museum, Washinton D.C., USA 所蔵の四つ組柄に振りを加えて高台で組んだもの。高台２段物。



翼文組

ペルー、リマのアマの博物館所蔵の翼文模様半分を高台で組んだもの。



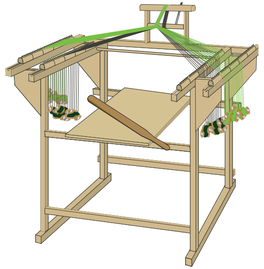
三角山道

Textile Museum, Washinton D.C., USA 所蔵の三角山道を高台で組んだもの。



高台の組紐

9



QR コードをスキャンし、高台で笹波組・一間組を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者

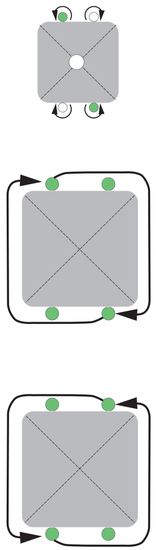
多田牧子



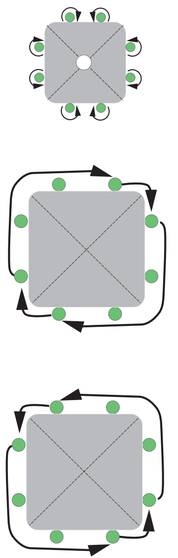
角台の組紐

丸四つ組、角八つ組、江戸八つ組＋鴨川巻、変わり江戸八つ、変わり江戸八つ組＋蛸足房

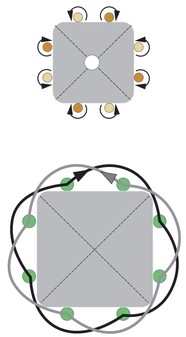
四つ組



角八つ組

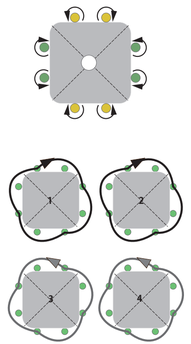


江戸八つ組
鴨川巻

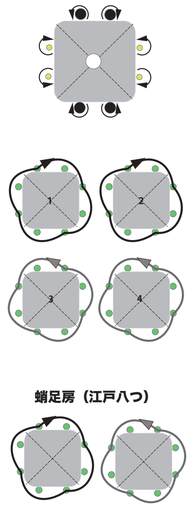


右回りの動きを多数回、左回りの移動を同じ回数組み巻しめる。2回転に1度ずつ動かさない糸を強く引く。撚りは1工程終わるまで追加できないので、あらかじめ均等に強めにかける。

変わり江戸八つ組



変わり江戸八つ組
蛸足房（江戸八つ）



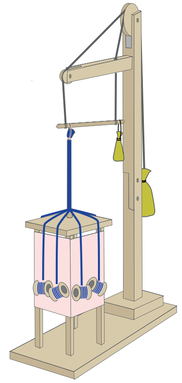
蛸足房（江戸八つ）

QRコードをスキャンし、角台で変わり江戸八つ組を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者
三上扶実子

1

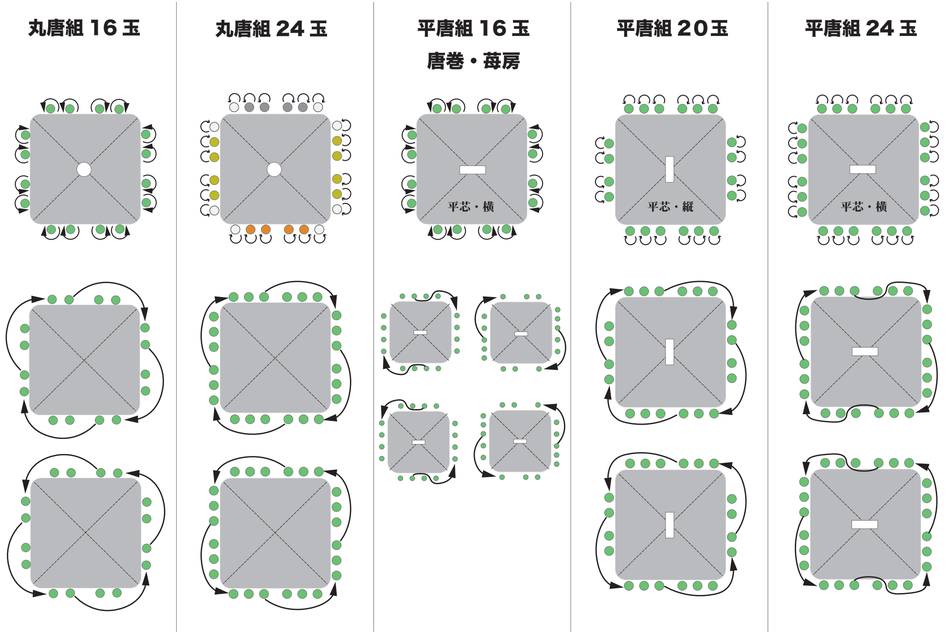




角台の組紐

2

丸唐組・丸唐組・平唐 16 ＋唐巻＋苺房・平唐 24 玉・平唐 24 玉

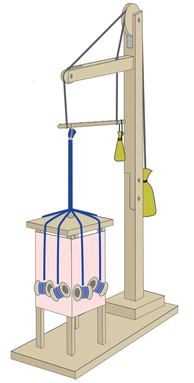


QR コードをスキャンし、角台で変わり江戸八つ組を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

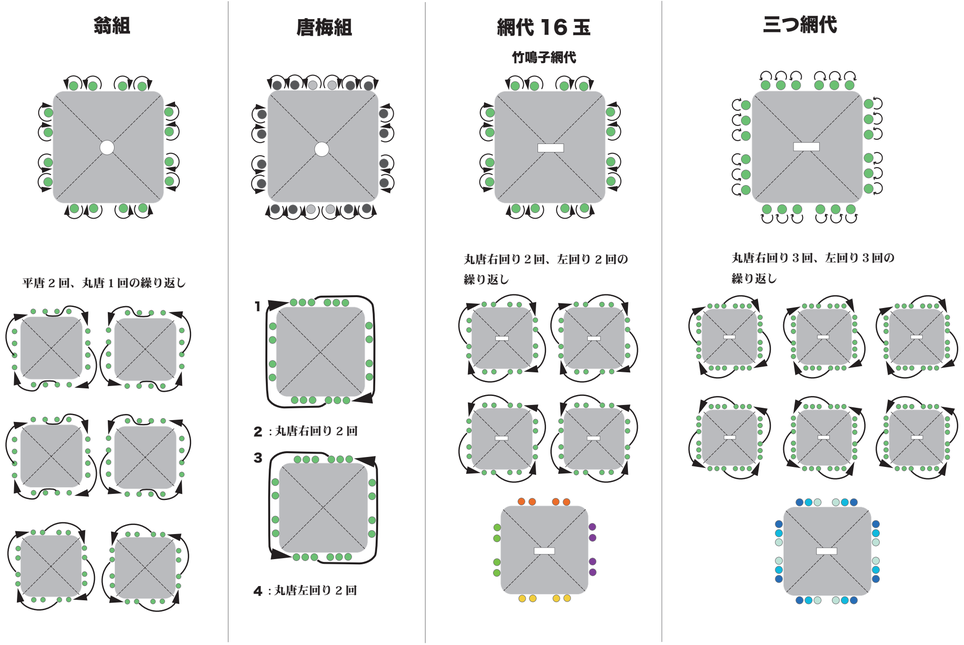
製作者

多田牧子





翁組・唐梅・竹鳴子網代・網代 16 玉・三つ網代



QR コードをスキャンし、角台で変わり江戸八つ組を組む動作を見る。

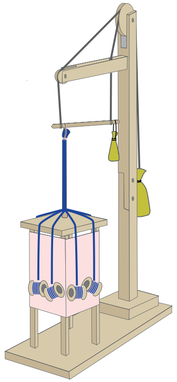
協力　昇苑くみひも

製作者

多田牧子・三上扶実子

角台の組紐

3



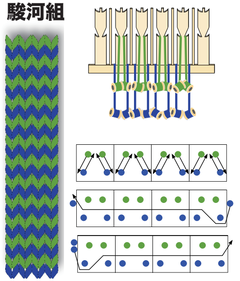


綾竹台の組紐

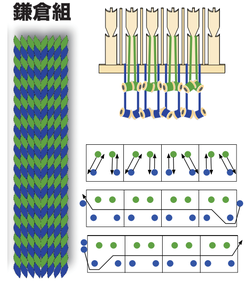
1

竹節組と笹柄組・梅駿河・半月・鎌倉組・折式・小うねり

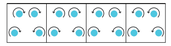
駿河組



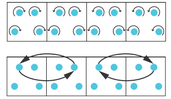
鎌倉組



駿河組・竹節組



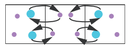
駿河組・笹柄組



駿河組 4 段ごとに入れ替える。

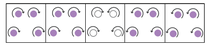
梅駿河組





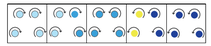
駿河組 10 段の後糸交換、2 段駿河組の後交換を戻す。

鎌倉組・半月



鎌倉組を 1 段。2 段目は右端羽根半分（1 目）を組まない。3 段目は右端から 2 目を組まない。4 段目は 3 目、5 段目は 4 目と組まない部分を増やし、次に組まない部分を減らす。左も同様に行う。

鎌倉組・折式

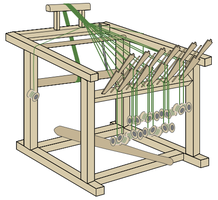


中央の羽根は駿河組、その他の羽は鎌倉組を組む。直線模様を 10 段組み、右半分の糸を上段は左回りに、下段は右回りに 1 個ずつ糸を入れ替える。さらに直線を 10 段組み、左半分で糸の入れ替えを行う

鎌倉組・小うねり組



最初の糸配置で鎌倉組を 3 段組み、中央から 3 玉ずつの糸を上同士、下同士で交差してから 3 段組み、糸を元の位置に戻して 3 段組む。
3 段毎に交差することで、波頭の模様になる。



QR コードをスキャンし、
駿河組を組む動作を見る。
協力　昇苑くみひも

製作者

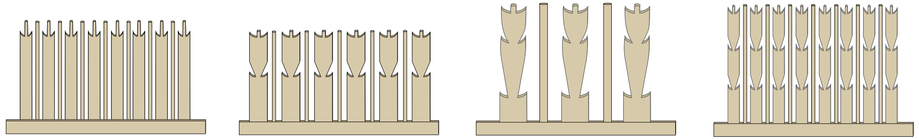
銭谷信子・多田牧子



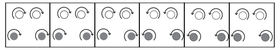
綾竹台の組紐 2

松笠・変わり瓢・綾小桜・若杉・おどし組

綾竹台のいろいろな羽根（1） 綾竹台は職人の手作りが多く、色々な種類がある。羽根もさまざまである。組み方や糸の動かし方も人によって違う。

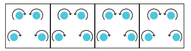


松笠組



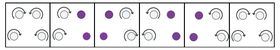
組む部分と組まない部分で松笠を表現したもの。糸足が長いので、寄りを丁寧にかけることが必要である。

変わり瓢組



中央部の羽根半分（2 目）と両端の 2 目を入れ替えて、くびれを作る組み方である。

綾小桜組



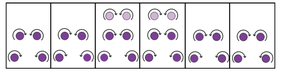
駿河組 1 段と鎌倉・逆鎌倉組の 1 段で小桜部分を組む。くくり糸は小桜の芯になるので、地糸と同じ色を用いる。

若杉組

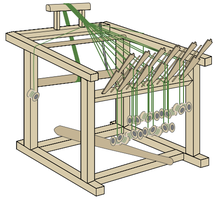


駿河組を 6 段、中央の 2 羽根をそれぞれ内側が上を通るように糸交換をして、杉模様を作る。

威組



下から 3 段目に配色糸を置き、その移動で模様を作る。



QR コードをスキャンし、駿河組を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

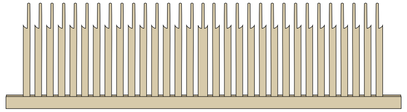
製作者
銭谷信子・多田牧子・三上扶実子

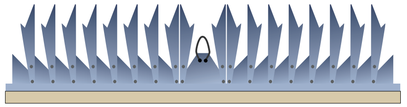


綾竹台の組紐 3

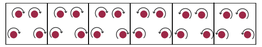
鎌倉交差・双び鎌倉組・よろけ駿河・田毎・綾檜垣

綾竹台のいろいろな羽根（2）



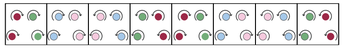


鎌倉交差組



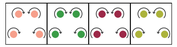
鎌倉組を任意の長さ組んだ後に半分ずつの交差を行う。交差部分の芯になる方は鎌倉組をしっかり組む。外側となるいとは撚りを綺麗に整える。

双び鎌倉組



8 畝の鎌倉組を横に 2 本繋げた構造。8 段組んだ後に隣と糸交換、1 段組んだ後に隣と糸交換を行う。

よろけ駿河



中央の 2 色を交換して 5 段、左右の 2 色ずつを交換して 5 段組むことの繰り返し。糸の動きが楽しい組紐。

田毎組・駿河組



駿河組を 12 段組んだ後に、中央の 2 色を 2 本ずつ入れ替え、2 段駿河組を組む。入れ替えが外に向かい、その後内側に向かう。結果的に田の字模様になる。

綾檜垣組

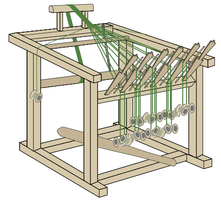


毎段糸入れ替えを行い、中心位置を 1 目ずつずらした鎌倉組を組む。24 工程を 2 回行うと元の配色位置に戻る。

QR コードをスキャンし、
駿河組を組む動作を見る。

協力　昇苑くみひも

製作者
多田牧子・西　幾代



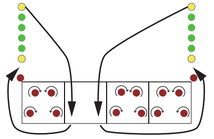


綾竹台の組紐

4

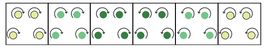
両面大和そてつ・錦繧繝・四枚飛駿河・鎧組・違い四枚駿河

両面大和そてつ



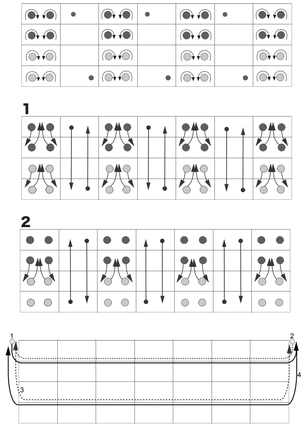
綾竹台の腕に糸置きがない場合は、腕に包帯を巻いて外側を包む糸がずれないようにする。下側の送りは全体の下とくくり糸の下をを通り、定位置に戻る。

錦繧繝・鎌倉組



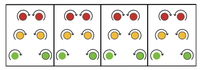
中央の糸から、上下段の間を通り両端へ、またその内側へと移動させて菱模様を作る。糸移動の後に毎段鎌倉組を１段ずつ組む。頻繁な糸移動が必要な手間のかかる組み方。

四段飛び駿河



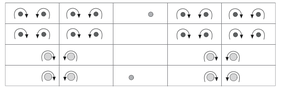
１を好みの段数、２を４段または５段組む。５段の場合は色が反対になる。くくり糸は上図の他、糸交換部分も通す。

鎧組



上２段の駿河組を４段、下２段の駿河組を４段の繰り返し。撚りは強めにかける。くくり糸は糸交換部分を通す。

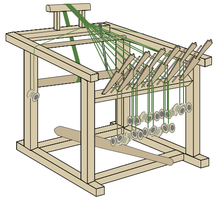
違い四段駿河



下から1,2段目に太い糸を、3,4段目に細い糸を用い、２枚の駿河組を組んで、上下をつなげたもの。昼夜組になる。

QR コードをスキャンし、
駿河組を組む動作を見る。
協力　昇苑くみひも

製作者
多田牧子



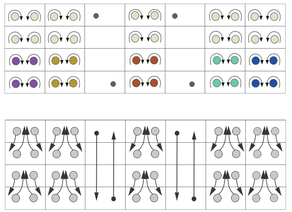


綾竹台の組紐

5

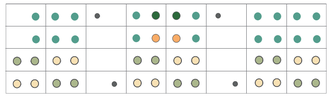
四枚絣駿河・四段綾竹・四段昼夜組・四段鱗組・四段違い鱗

四段絣駿河



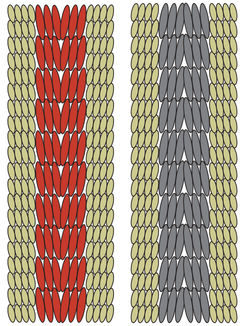
上下の糸を入れ替えて模様を作る。

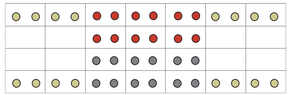
四段綾竹



模様を入れたいところで、上下の糸を入れ替える。表と裏で全く印象が違う組紐を作ることができる

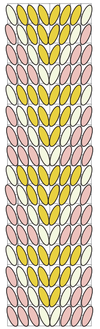
四段昼夜組



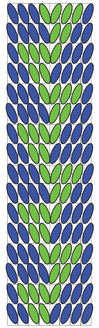


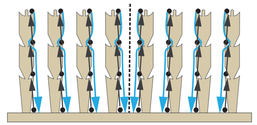
地糸部分は毎段、鎌倉組を組む。昼夜部分は２段に１度組む。

四段鱗組

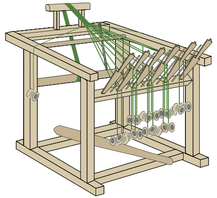


四段違い鱗





４段羽根８枚の中心寄りの羽根のみを用い、一番上の糸が、２番目の内側、３と４番目の糸の外側を通って下に降りる。くくり糸はまっすぐ通す。綾竹の組は通常まっすぐで、側面方向には曲がらないが、この紐はしなやかに曲げられる。



QR コードをスキャンし、
駿河組を組む動作を見る。
協力　昇苑くみひも

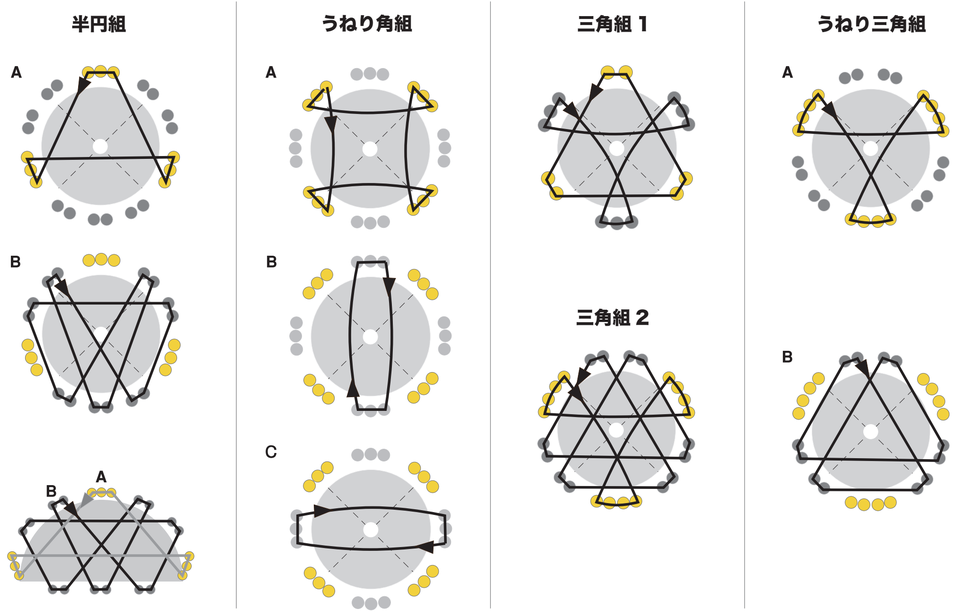
製作者
多田牧子・西　幾代



創作の組紐

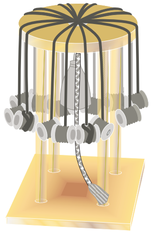
1

半円組・うねり角組・三角組 1・三角組 2・うねり三角組 S



QR コードをスキャンし、
バロック金剛を組む動作を見る。
協力　株式会社テクスト

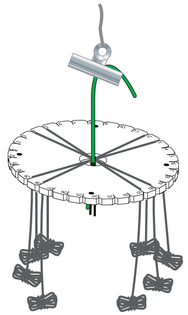
製作者
多田牧子

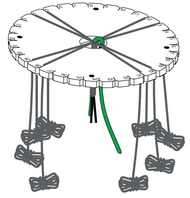


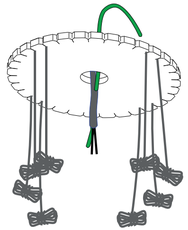


紐入り紐（Braid in braid)・ジグザグ組

紐入り紐（Braid-in-braid）



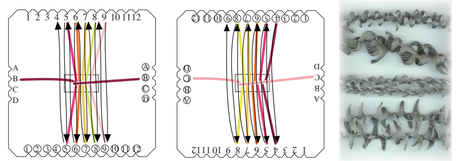


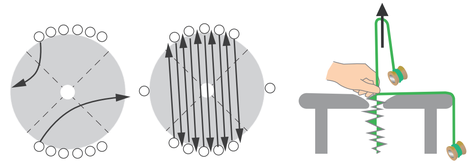


組糸と芯紐を一緒に別糸で束ね、芯をくるむように八つ金剛で組む。芯は上から吊るすか、組み手の肩にかける。
芯を紐から出す。
所用の長さ組んだら、芯を外に出し、芯がない状態で八つ瀬を組む。
芯を適当なところでディスクの穴から上にまっすぐあげ、ディスク上の組糸で包むように 20 段ほど組む。その後、芯を引っ張り、ループを作る。丸台で組む場合も同様に行う。

ジグザグ組（Zigzag 1-1 Braiding）







組紐プレートで方向を反転させて組むジグザグ組は、丸台でも組むことができる。吊り重りは用いず、組糸の引っ張り具合でジグザグの形態がいろいろできる。ただし 1:1 の組目のものはプレートでしかできない。

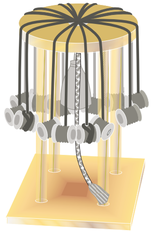
QR コードをスキャンし、
バロック金剛を組む動作を見る。

協力　株式会社テクスト

製作者
多田牧子

創作の組紐

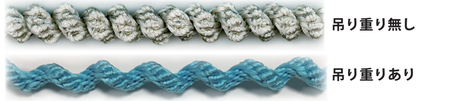
2

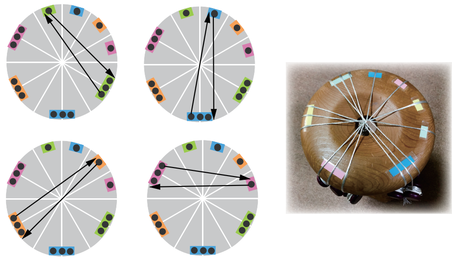




アンバランス金剛 16 玉 (バロック金剛) ・ アンバランス金剛 24 玉

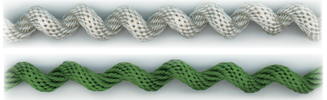
アンバランス金剛 16 玉（バロック金剛 ）

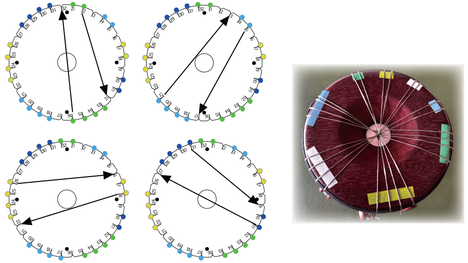




丸台・単色で組む場合は図や写真のようにグループごとにテープなどで色分け分けをしておくと間違えにくい。銀色の紐は、吊り重りなしで組んだもの、青色の紐は吊り重りをつけて組んだもの。丸台から滑り落ちないように、丸台の鏡の周りに、滑り止めの包帯などを巻いておく。

アンバランス金剛 24 玉

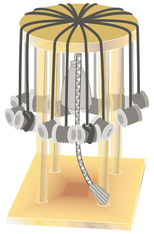




ディスクの場合は、糸が固定されるので、組みやすい。丸台・単色で組む場合は写真のようにグループごとにテープなどで色分け分けをしておくと間違えにくい。吊り重りなしで組む場合は、丸台から滑り落ちないように、丸台の鏡の周りに、滑り止めの包帯などを巻いておく。

QR コードをスキャンし、
バロック金剛を組む動作を見る。
協力　株式会社テクスト

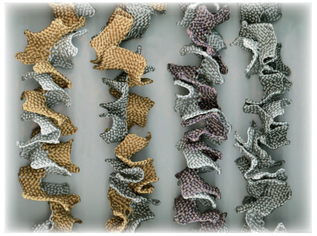
製作者
多田牧子・多田真純

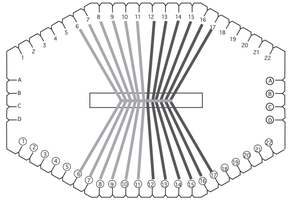




2 色平角螺旋組・クネクネ組

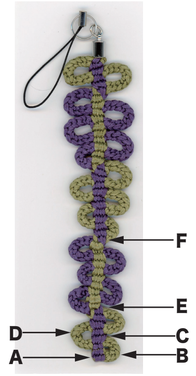
2 色平角螺旋組





組紐プレートやオクトプレートでしか組めない構造の組紐。左半分・右半分でそれぞれ平角螺旋を組み、中央部でインターリンクさせたもの、平角螺旋は２回以上行うと大きいフリルになる。

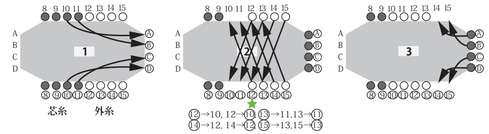
クネクネ組



A: 芯糸が左▶右の交差
B: 右ループ
C: 芯糸が右▶左の交差
D: 左ループ
E: 芯糸が右▶左の交差 x2
F: 芯糸が左▶右の交差 x2

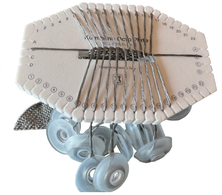
クネクネ組は、曲がりくねったループが左右にできる組み方。ループを作る糸は、左右に移動し、「芯糸」になったり、「外糸」なったりする。オクトプレートでも丸台でも組むことができる。

オクトプレートの場合の最初の糸の動き



QR コードをスキャンし、
オクトプレートで組む動作を見る。
協力　株式会社テクスト

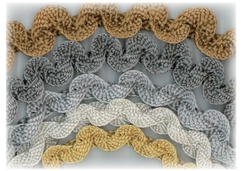
製作者
多田牧子・多田真純





大波組・亀甲レース組・1-1 Braiding の花

大波組

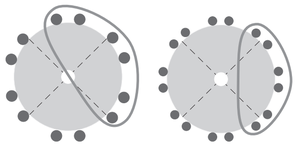




構造は安田組（1-1 組）と笹波組、または安田組と安田組を中央で連結させてカーブを作り出す技法の一種である。安田組同士の連結より、安田組と笹波組の連結の方がうねりが大きくなる。一番外側の糸を中央に移動させて綜糸にし、前後の糸を入れ替える。

亀甲レース組

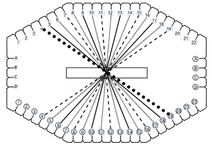




図のように６玉を用い、６玉１間丸組を３段または４段組む。次にそのグループの２玉だけを残し、反時計回り方向の次の２玉を加え６玉１間丸組を同様に組む。同様に六角形を作りながら、１間丸組を組み続けると１間丸組が螺旋状に繋がった亀甲レースとなる。

1-1 Braiding の花





オクトプレートで、金属糸やテグスを用い、幅の広い平紐（1-1 Braiding）を組む。途中ジグザグ組、羅組、平螺旋組などを入れても面白いものができる。テグスの場合は、わざと組目を崩れるように引っ張っても良い。平紐の片方を縫い縮めると花を作りやすい。

QR コードをスキャンし、
オクトプレートで組む動作を見る。
協力　株式会社テクスト

製作者

尾崎嘉代・小嶋博子・多田牧子

創作の組紐

5

